

巻頭言

分裂の岐路に立つ
イスラエルのメシアニックジュー

LCJE 委員 佐野 剛史

イスラエルのメシアニックジューが発行する雑誌『Israel Today』誌(Web版)に、「Messianic Jews Head Toward Breakup (分裂に向かうメシアニックジュー)」という見出しの記事が2月3日付けで掲載されました。この記事は、昨年のLCJE ニュースでも議論があったユダヤ人伝道団体「ティックーン」の問題を取り上げ、イスラエルのメシアニックジューが分裂の危機を迎えていると報じています。この記事の冒頭で、記者のDavid Lazarus氏は次のように記しています。

神のご介入がなければ、イスラエルのメシアニック会衆は本格的な分裂に向かっているように見える。

イスラエルのメシアニックジュー会衆が経験する最初の正式な分裂となるかもしれない状況の中で、推移を見守っている私たちは最善の結果を望んでいるが、状況は思わしくない。

この記事では、分裂の危機の発端は、昨年のLCJE ニュースでも記事が連載されたティックーンの神学にあるとしています。この記事の内容を紹介すると、争点になっているのは主に3つであるとし、次のように説明しています。

- ・アライメント：これはティックーンの指導者の一人であるアシェル・イントレーター氏の著書「Alignment (アライメント)」に書かれている教えをめぐる論争である。イントレーター氏は、異邦人教会はメシアニックジューと「アライメント(連携)」しなければならないと主張しているが、これは「異邦人教会がメシアニックジューに服従し、メシアニックジューの権威の下に置かれる必要があるという教え」とであると批判を受けている。
- ・広くて狭い希望(The Narrow Wider Hope)：これはティックーンの創始者であるダン・ジャスター氏の造語で、福音を聞いたことがない、あるいは反ユダヤ的な環境でしか福音を聞いたことがないユダヤ人は地獄に行くのかという問題を扱ったものである。イエス・キリストに対する信仰を告白していなくても救われる可能性があるというこの教えは、福音派の教えとはほど遠いもので、救いはイエスのみにあるという教えを根底からくつがえすものであるという批判を受けている。

・使徒：ティックーンの指導者は、みずからのことを使徒(小文字の apostle)と呼び、会衆の枠を越えて複数の会衆を監督する神のしもべであるとしている。これに対し、使徒職は今日の教会には存在しないという批判を受けている。また、ティックーンの指導者と新使徒の宗教改革(NAR)との関係も指摘されている。NARを批判する人々は、NARは論争や問題が多く、イスラエルのメシアニックジューをNARの影響から守りたいと考えている。

ティックーンと、ティックーンを批判する側のやり取りが続いているものの、この問題は今もって決着していないと記者は記しています。

この記事では、この論争の影響で、ヘブル語を話すメシアニック会衆の指導者が集まるカンファレンス「ケネス・アルツィ(Kenes Artzi)」への出席者が減少しているという問題も指摘されています。

記者は、この論争は過去2年間にわたって続いているもので、これまでは問題を記事にしないようにケネス・アルツィに求められていたと明かしています。しかし、この論争が次第に世界のキリスト教会で知られるようになっていくことから、正しい情報をもとにクリスチャンが祈ることができるように、問題のことを取り上げて記事をしたと語っています。

この問題は、ユダヤ人伝道に関わるLCJE日本支部にとっても向き合う必要のある問題であり、多くのクリスチャンの祈りを必要としているものです。このメシアニックジューの分裂の問題について、神からの解決が与えられるように、聖書を信じ、ユダヤ人の救いを願う皆様と共に祈っていきたくと思っています。

【追記】.....

ハーベスト・タイムが、NARなど聖書信仰に関わる問題を解説する「Harvest Watch」というキリスト教情報サイトを今年3月に公開予定です。私事ながら、私もこのサイトの運営に関わり、「リサーチャー」という肩書で記事を書かせていただくことになりました。ここで取り上げたような問題も解説していますので、よければ harvestwatch.tv にアクセスして、ご意見などをいただければ幸いです。



P2▶4

本部ニュース ジム・メルニック

P5

シオンとの架け橋 石井田 直二

P6

アルコイリス・ミニストリー 早川 衛

P7

ハティクバ・ミニストリー 高瀬 真理

P8

お知らせ 事務局より

アムステルダム・ユダヤ人共同体の 歴史的意義

LCJE 国際コーディネーター ジム・メルニック

翻訳：駒井洋子

■カートライトとアムステルダム請願



およそ一年前に、私は LCJE 会報にカートライトによる 1648 年、49 年の請願について記事を書きました。この請願は、よく知られてはいないものの、ユダヤ人の祖国について政治的活動をクリスチャンシオニストが論じる最初の例でした。この請願は、ユダヤ人は「イマニュエル、命の主、光と栄を知るようになるだろう」という聖書の展望を述べたものでした。(LCJE 会報 130 号、11～12 月、8～10 ページ「バルフォア宣言」参照)

この請願は、当時、アムステルダムに住んでいた、英国人寡婦のヨハンナ・カートライトとその息子エベニーザーによって始められました。それは、当時のユダヤ人に課せられた禁止令を解禁するようにピューリタン当局に対して発せられたものでした。当時ユダヤ人は、1290 年より英国から追放され、違反して帰国すれば処刑されるというものでした。ところが、アムステルダムのユダヤ人コミュニティは、カートライト家がクリスチャンのために執り成し行っているような印象を抱きました。

この請願は、当時、アムステルダムに住んでいた、英国人寡婦のヨハンナ・カートライトとその息子エベニーザーによって始められました。それは、当時のユダヤ人に課せられた禁止令を解禁するようにピューリタン当局に対して発せられたものでした。当時ユダヤ人は、1290 年より英国から追放され、違反して帰国すれば処刑されるというものでした。ところが、アムステルダムのユダヤ人コミュニティは、カートライト家がクリスチャンのために執り成し行っているような印象を抱きました。

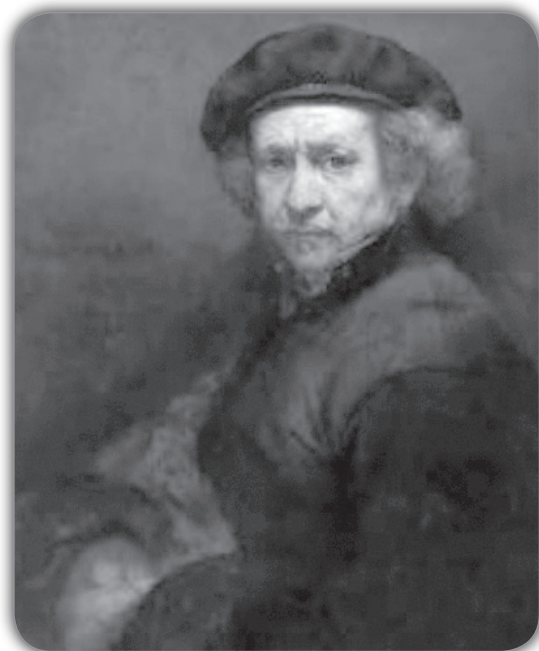
またこの請願は、英国には差し迫る多くの事柄が存在し、そのために直ちにうまくいくことはありませんでした。数年後の 1655 年、アムステルダム・ユダヤ人コミュニティのリーダーであるラビ・マナセ・ベン・イスラエがロンドンを訪問するという画期的な事柄の根回しをすることによって、結果的に、請願は好意的に受け取られました。

■なぜアムステルダムなのか

この原稿を書くにあたり、私が最初に最も興味を引かれたのは、カートライト家とユダヤ人コミュニティとの互いのかかわり方を理解することでした。明らかにカートライト家は、アムステルダム居住のユ

ダヤ人と彼らの窮状に深く心を動かされていました。このことに、私は興味を引かれ、当時のアムステルダムのユダヤ人コミュニティについてもっと知りたいと思いました。研究すればするほど、このコミュニティは、当時重要な存在であっただけでなく、その影響力は何世紀を経て、今日まで続いていることが明らかになってきました。

■レンブラント・ファン・レイン



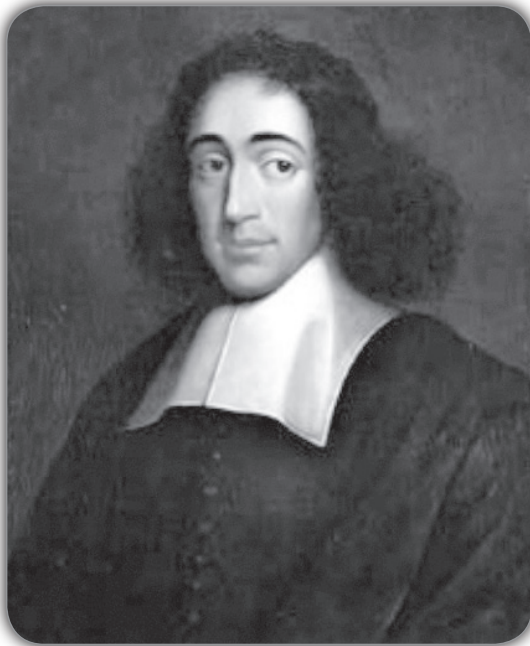
ある記録によれば、「アムステルダムは 17 世紀の最も華やかなユダヤ人コミュニティがあり…そこには、セファラディ・ユダヤ人が豪華なシナゴグを建て、ユダヤ人難民を保護し、市民としての役割を活発に果たしていた。」と記されています。そこは、当時のヨーロッパの最も著名なシナゴグ「ポルトガル人シナゴグ」、そして現在では Ets Haim Library (ラディノ語のシナゴグ) として良く知られているシナゴグの故郷ともいえるものでした。そこにはまだ世界で最も古いライブラリーの一つである Ets Haim Library があります。

また、アムステルダムは、歴史上最も著名な芸術家の一人レンブラント・ファン・レインの故郷でもありました。ユダヤ人・バーチャル・ライブラリーによると、「レンブラントは、1633 年から 1635 年と 1639

年から1658年まで、アムステルダム・Breestraatのユダヤ人地区に住んでいた。」と記録されています。ラビ・マナセ・ペン-イスラエルは、この機関誌133号の22ページにある、オランダ人神学者Gisbertus Voetiusの記事のなかでとりあげられています。)を含むセファラディ・ユダヤ人の友人がいました。マナセは、「いろいろな点で、ユダヤ人とクリスチャンとの架け橋」であると考えられています。「親ユダヤ」と同様、彼はメシア的救済の千年王国への希望を心に育んでいました。

レンブラントは、彼は自分の絵画に多くの聖書的テーマを用いていましたが、「ヘレニズム文化遺産よりヘブル文化により親しく、同胞オランダ人同様に旧約・新約聖書に精通していました。」当時、新オランダ共和国は…スペインからの解放を祝い、自分たちを選ばれた民「新イスラエル」と見なし、国を「新エルサレム」と見なしました。一方、スペインの圧制者を聖書時代のファラオやハマンに関連づけました。

■バルク・スピノザ



アムステルダム・ユダヤ人コミュニティの以前のメンバーで最も著名人の一人が哲学者であり著述家であるバルク・スピノザで、彼はアムステルダム・ユダヤ人コミュニティで育ちそこで教育を受けました。しかし、後にユダヤ教信仰の基本的教義を放棄することになりました。

スピノザは、彼の思想のゆえに大々的に追放され、破門されました。多くの点で、彼は近代世俗人の最初の実例（少なくとも先駆け）と言えます。

彼は、確かに先駆けとなり、また後に来るハスカーラ（ユダヤ啓蒙主義）を導く助けをしました。このことは、2006年ユダヤ人哲学者レベッカ・ニューバーガー・ゴールドステインの著書『裏切るスピノザ：我々に近代性をもたらしたユダヤ人背教者』に考察されています。

ゴールドステインは今日の世俗主義のさまざまな根源を追跡し、少なくともその一部がスピノザの思想にあるといいます。彼のこれらの理念は、アムステルダム・ユダヤ人コミュニティにとって大きな脅威と考えられ、その結果、スピノザはたった23歳の若さで、コミュニティから追放されたのです。

アムステルダムと偽メシア = サバタイ・ツェヴィイ (Sabbatai Zevi)

多くのユダヤ人が偽メシアであるサバタイ・ツェヴィイの影響を受けたのはこの時期でした。ゴールドステインは「アムステルダムのユダヤ人は、自称メシアを熱狂的に称え、その虜となった。」と語っています。

アイザック・アボアブはスピノザを追放したラビの一人でした。彼はカバリストで、ポルトガル・ユダヤ人コミュニティから17世紀初頭にアムステルダムにやってきた人で、熱狂的なサバタイ・ツェヴィイの信奉者となりました。彼は、ユダヤ人が安息日に唱えていた祈りを、「われらの主、偉大な王サバタイ・ツェヴィイ、油注がれた主、ダビデの子メシア、王メシア、メシア贖い主、メシア救い主、我らの義なるメシア、ヤコブの神の油注がれたもの」と書き換えさえしたほどでした。

このメシアニック旋風は、当時の不安定さと目の前の難問によってより強調されました。その上、スペインからの異端審問と追放、1648年ウクライナでのフメリニツキーによる大虐殺の結果、何百ものユダヤ人コミュニティが崩壊するという恐怖などがありました。セファラディ・ユダヤ人にとっての何世紀にも黄金時代の後、ユダヤ人の苦難はその頂点に達している、少なくとも当時は、そのように思われました。



ゴールドSTEINによると、「ディアスポラのユダヤ人は、セファラディ・ユダヤ人と同様にアシュケナージ・ユダヤ人（信奉者の数としては後者がはるかに多かったのだが）は、最終的に救出されると確信していました。」さらに、「フメリニツキー蜂起による大虐殺は、アシュケナージ・ユダヤ人が大量に殺害されるという残虐行為を招いた…一加えてセファラディ・ユダヤ人に課せられた異端審問による過酷な拷問は、メシアニック時代がついに彼らに訪れたというしるしとして見られる。」と記録されています。これらの苦しみは、偽メシアサバタイ・ツェヴィを受け入れる当時の思想的土壌を、とくに、アムステルダム・ユダヤ人コミュニティにおいて、豊かなものとなりました。

ゴールドSTEINは、下記のような話を取り上げています。「伝えられるところによると、彼らはビジネスを放り出し、一日中シナゴークで過ごしている。彼らは、多くの損失を出しながらもビジネスを手放した。アブラハム・ペレイラは、アムステルダムのポルトガル系ユダヤ人の貿易商人王で最も裕福な者で、メシアが承知していることを確信し、数百万の全財産を捧げています。

事はこれだけでは終わりませんでした。アムステルダムのユダヤ人は、アウデルケルクの墓地に埋められている遺体を掘り出すことさえしました。それは、エルサレムに遺体を運びそこで復活ができるようにする

ためです。当時、アムステルダム・ユダヤ人コミュニティとヴェニス人のラビたちとは強力な関係がありました。彼らの一人が、墓地プランに対する「全く論外だということ」を表明する」ということを記述しています。

結果として、これらメシアニック的希望は、サバタイ・ツェヴィがトルコのスルタンの手に陥ったとき、殉教するよりイスラム教に改宗したということで、完全に砕けさりました。

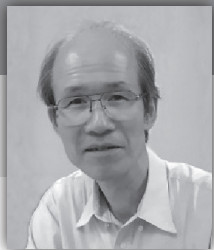
これは、ユダヤ人コミュニティに大きな幻滅をもたらしました。またこの件は、私たちにはスピノザを彷彿させます。今でも多くのユダヤ人は、ユダヤ人の苦難には意味があると信じていました。それらは「メシア誕生に至る苦痛」でした。スピノザは、この世界的見解を内部から見て知っていました、それはかつて彼の心に抱いていた認識でもありました。しかし、今はそうではありません。

彼はユダヤ人が特別な運命を持っているという考えを否定していました。これらの一連の事件は、アムステルダム・ユダヤ人コミュニティに与えたインパクトをはるかに超え、近代世俗主義を形作るのに非常に大きなインパクトを与えました。

■現在のニューヨーク vs 17 世紀のアムステルダム

当時のユダヤ人の生活に与えたアムステルダムの役割を考えることは興味深いことです。ユダヤ人にとってアムステルダムは、真の「サンクチュアリー・シティ＝聖地」（現在より、重く用いられる慣用語）となっていました。同様に、現在のニューヨークシティは、ポストホロコーストの「サンクチュアリー・シティ」と考えてよいでしょう。そこでは、何百万のユダヤ人が安全に住み、栄えることができる町としてのことです。

それは、17 世紀にアムステルダムが役割を果たした役割とほぼ同じです。1492 年スペインがユダヤ人に行った異端審問と追放の恐怖の結果、アムステルダムは、セファラディ・ユダヤ人の生活の中心、激しい神学的衝突とメシア的希望への突進、ユダヤ人世界での世俗主義の台頭の始まりの目撃者となりました。



ユダヤ人と異邦人が一緒に語ったイザヤ書セミナー

シオンとの架け橋 石井田 直二

今年1月には、ヨセフ・シュラム師を日本にお招きしてセミナーをしていただく予定になっていました。ところが、到着日の朝、経由地の台湾から「シュラム師が救急車で病院に運ばれた」との知らせが入りました。結局、予定通りの便で成田には到着されたのですが、体調不良のためわずか2日で帰国されてしまったのです。幸いなことに、皆様の祈りでシュラム師はその後、順調に回復しておられますが、残された私たちのことについてレポート致します。

■セミナーの主題はイザヤ書

予定演題は「預言者イザヤと終末に向けての神の計画」。1月8日にキリスト兄弟団宇都宮教会で、1月9・11・13日に、名古屋・大阪・東京でセミナーを開催する計画でした。

シュラム師は8日のセミナーだけは何とかこなされたのですが、後は全てキャンセルして帰国することに。一時は9日以降の全集会の中止も考えたのですが、イスラエルから随行されてきたダニエル・スターン師はユダ・バハナ師と共にネティブヤの後継者として昨年に按手を受けておられる方で、メシアニック神学者として高名なデビッド・スターン博士のご子息です。私も20年以上にわたりシュラム師の通訳をさせていただいた経験もあるので、何とか2人で頑張ってお埋めをすることになりました。

シュラム師はスターン師と私を部屋に呼び、予定していた講演内容の、ごく簡単なメモを渡され「あとは頼む」と言って、私たちのために油注ぎを祈って下さいました。

そして9日に迎えた名古屋セミナーは、約40人が参加されたのですが、私たちも準備不足で、やや不十分な内容でした。それでも、ご参加いただいた皆様に大きな励ましを受けました。翌日の10日は、ほぼ自由時間だったため、スターン師と一緒にシュラム師からいただいたメモを解説し、分担を決めてからしっかり準備を行い、翌11日の大阪セミナーに臨むことができました。この日は、約90人の参加者があり、聖霊の導きを感じられる、良い集会となりました。そして最後の東京セミナーにも、約100人の出席者があり、とても好評でした。

■イザヤ書における異邦人

イザヤ書は、イスラエル人に対する神の怒りや裁きと、異邦人に対する神の怒りや裁きなどが交互に書かれています。よく読んでみると、10章などにあるように、不信仰なユダヤ人を、彼らよりもさらに罪深い異邦人を使って罰した後、今度はその異邦人たちが処罰される、という流れになっています。

本誌読者の皆さんは、ローマ1:16に「まずユダヤ人に、次に異邦人に」という福音の流れが記されていることをご存じかと思います。しかし、同2:9には全く同じ語法で、罪に対する処罰もまた「まずユダヤ人に、次に異邦人に」と書かれているのです。

それだけではありません。終末におけるイスラエルの帰還と、世界宣教における異邦人の役割もまた、イザヤ書には詳細に明らかにされています。



こうした内容を「異邦人とユダヤ人の講師が分担して語ったのが良かった」という感想を多くの方々からいただきました。ユダヤ人に対する神の怒りの部分を、ユダヤ人であるスターン師が語り、異邦人に対する神の怒りを異邦人である私が語ることで、イザヤ書の持つ味わいが、より受け止めやすくなったのです。そして何より、ユダヤ人と異邦人の両方に関係しているこの書を、ユダヤ人と異邦人が協力しながら教えること自体が、イザヤ書の預言の成就となっていました。

■神のわざは、すべて時に becoming 美しい

今回、スターン師は「付き人」のつもりで来日されたのに、突然、主講師をすることになりましたが、ネティブヤの新リーダーにふさわしい、なかなか良い講義をして下さいました。私の方は、宿泊や細かい調整で忙しく、講義内容を準備する時間は少なかったのですが、幸いなことに私たちの教会で昨年に半年かけてイザヤ書を講義したばかりだったので何とかなりました。

深遠なイザヤ書のセミナーを、突然、主講師が抜けて2人でカバーするのは大変でしたが、シュラム師がおられたら無かったと思われるコラボレーションが実現できたことは、とても不思議な神の導きだったと思います。

「イザヤ書の面白さが分かった。もっと学びたい」との感想も多くの参加者からいただきました。急遽帰国されたヨセフ・シュラム先生には、早く完全に回復されて、また日本に来ていただき、教えていただける機会があるようにと願っています。

※ このイザヤ書セミナーのDVDをご希望の方は、シオンとの架け橋までお申し込みください。各会場で異なる個所の講義が行われていて、全体が約6時間の連続講義となっています。(宇都宮でのシュラム師の講義も収録)

DVD／1枚組 1,030 円

TEL: 078 (341) 7501

FAX: 078 (341) 7502

イエス・キリストの花嫁が整えられるために必要なこと



アルコ・イリス・ミニストリーズ代表 早川 衛

昨年末、中国政府が新型コロナウイルスによる肺炎発生を公表する前から、同疾病に関し警鐘を鳴らした湖北省武漢市の医師、李文亮氏がいた。李氏は、先月7日、同肺炎により死亡した。李氏は、死の直前までメディア取材に答え続け「治ったらすぐに現場に出たい」と語っていた。しかし、その思いは叶わなかった。李氏ら8人は、昨年12月30日、医師仲間のグループチャットで原因不明の肺炎に関し「海鮮市場の7人が重症急性呼吸器症候群と確認された」などと警戒を呼びかけたことで、地元警察に「デマを流した」として訓戒処分を受けた。

しかし、その後、感染は李氏らの警告通り拡大した。このことから、ネット上では、中国当局の情報統制や情報隠しに対する批判が噴出した。李氏の死後、中国国家監察委員会は、調査チームを武漢に派遣すると発表し、中国外務省と国家卫生健康委員会は、李氏の死去に哀悼の意を表明。これに関しては「李氏の名誉回復を図り、当局に対する批判の拡大を防ぐ狙いがある」と指摘されている。このように、中国当局の言動は一致しておらず、明らかに偽善と言える。また、中国当局の世論に対する警戒感も見え隠れる。

イエス・キリストも李氏のように「現場」に出続けた。そして、行く先々で人を癒し、悪霊を追い出し、奇跡を行なわれた。しかし、ダルマヌタ地方（マルコの福音書8:10）では、何もされなかった。パリサイ人たちがやって来たからである。イエスは彼らから離れ、再び舟に乗り、向こう岸へ行かれた。そして、イエスは、弟子たちに次のように命じられた。「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種には、くれぐれも気をつけなさい。」パリサイ人は、神の戒めを遵守していると信じ切っていたのだが、そうではなかった。それは、イエスのことばから明白である。

彼らの言動は一致しておらず、彼らの中には偽善が渦巻いていた。また、ヘロデは王であり、権威を持っていたため、人々はヘロデを恐れた。しかし、ヘロデ自身も人々の目を気にした。つまり、人々を恐れていたことが、マルコ6章26節のことばから分かる。同節には「王は非常に心を痛めたが、自分自身が誓ったことであり、列席の人たちの手前もあって、少女の願いを退けたくなかった。」と記されている。イエス・キリストのからだである教会に、言動の不一致や偽善、ならびに人に対する恐れというパン種があるなら、イエス・キリストが望まれる実は結ばれないだろう。また、イエス・キリストは、サドカイ人た

ちのパン種にも用心しなさい、と言われた。彼らは、復活を信じなかった。恐らく理性重視の傾向があったのだろう。理性は否定されるものではないが、理性によって信仰がなおざりにされるなら、教会は実を結ぶことはないだろう。

さて、海外の報道の中には、上述の李氏がクリスチャンであった、とするものがある。中国当局のクリスチャンに対する迫害は、近年激しさを増している。しかし、今、中国当局は、激しく揺さぶられているはずだ。それは、イスラエルをエジプトから出て行かせまいと心を頑なにしたファラオとエジプト全土が、主のもたらした疫病などにより揺り動かされたことと重なるのである。イザヤ書49章11から12節には、次のように記されている。「わたしは、わたしの山々をすべて道とし、わたしの大路を高くする。見よ。ある者は遠くから来る。見よ。ある者は北から西から、また、ある者はシニムの地から来る。」ここにあるシニムは中国を意味することばだ。すなわち、中国は、神の計画の実現に何らかの重要な役割を担う国であと思料される。今、中国のために祈らねばならない。

今日の世界情勢を見る時、教会の花婿なるイエス・キリストの再臨は近づいた、と言える。したがって、教会は整えられる必要がある。そのためにパン種を排除しなければならない。パウロが書いたように、わずかなパン種が、こねた粉全体をふくらませるのである。新しいこねた粉のままでいられるように、古いパン種をすっかり取り除くべきである。しかし、パリサイ人もヘロデもサドカイ人も、自らのパン種に気づかなかった。それが問題であった。今、次のように祈ろう。「主よ。私たちの中に潜む古いパン種を示してください。」言動の不一致や偽善、人や権威に対する恐れ、ならびに信仰をなおざりにするような理性というパン種が、イスラエルと異邦人から成るキリストの教会にあってはならない。

そして、もうひとつ不可欠なことは、今という時を悟ることではないだろうか。ダビデを全イスラエルの王にしようと全き心でヘブロンに集まって来た戦士たちがいた。彼らは、ダビデを王とすることで心が一つになっていた。そして、そのような戦士たちの中に、時を悟り、イスラエルが何をなすべきかを知っていた者たちがいた。それは、イッサカル族のかしらたち二百人であった（I歴代誌12章32節）。教会もイエス・キリストを王として迎えることで心をつにし、イッサカル族のかしらたちのように、今という時を悟ることが不可欠である、と思料する。



キリストの弟子として（１）

ハティクバ・ミニストリー代表 高瀬 真理

ダビデの One Thing とは「主の家に住むこと」でした。「主の家に住む」とは、なにかの活動をするということではなく、ひたすら、主の家にくつろぎながら、主のすばらしさを知ることです。主の愛、主の恵み、主のいつくしみに触れ続けることです。主とのゆるぎない愛のかかわりを築くこと、それがダビデの One Thing です。今月号はキリストの弟子として 3 つのキーワード通してユダヤ人伝道の積極性を考えてみたいと願っています。

1. 「主の家に住む」ことの三つのキーワード

ダビデの霊性のキーワードである「主の家に住む」を、新約聖書のことばで言い換えるならば、三つのキーワードをつくることができます。これらの三つのキーワードはみなそれぞれ密接なつながりを持っています。まず、その三つのキーワードなるものを挙げてみましょう。

- | | |
|--------|---------------|
| (1) 安息 | キリストのくびきを負う |
| (2) 自由 | キリストのうちにとどまる |
| (3) 喜び | 謙遜の限りを尽くして仕える |

(1) 「キリストのくびきを負うこと」

一つ目は、「キリストのくびきを負う / マタイ 11:29」ことです。

二つ目は、「キリストのうちにとどまる / ヨハネ 15:5」ということです。

そして三つ目は、「謙遜の限りを尽して主に仕える」ということです。

これらは、表現こそ違いますが、みな同じ方向性を持っています。その方向性とは、真の「謙遜を身につける」ということです。

だれから学ぶのか、人からではありません。私たちの主イエス・キリストから学ぶのです。なぜなら、真の謙遜は御子イエスのうちにみられるからです。ですから、イエスはマタイ 11 章 28 ～ 29 節でこう言われました。

28 すべて疲れた人、重荷を持っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたまいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。

ここでの「わたしから学びなさい」という学びの中心は「へりくだり」です。謙遜こそ本来のすべての被造物のあるべき姿であり、被造物が祝福される奥義です。イエス・キリストという方はまさに謙遜の極みの存在です。自分から「へりくだっている」と言っています。御子として御父の前に「謙遜

の限りを尽くして仕える」ために御父から遣わされてこの世に來られたからです。その御子が「わたしの謙遜というくびきを負って、わたしから学びなさい。」と招いているのです。

マタイの 11 章 29 節の招きとは、生きることに疲れたことを意味しますが、聖書の文脈においては、主の働きをすることにおいて疲れた人という意味です。しかし、そこから派生して、主の働きをしていない人であっても、だれでも自分の人生に疲れ、生きることに疲れた人は、という意味での招きでもあります。

しかし、その招きが本当に意味あるものとなるためには、「わたしのもとに来る」というだけではダメなのです。「わたしのもとに来て」、「わたしのくびきを負い、わたしから学ぶということがなければ、休むことはできない。真の安息は保証されません」とイエスはここで語っているのです。

多くの人は、イエスの「これこれの人は、わたしのもとに来なさい」ということばを聞いて、イエスのもとに行くことだけをしますが、その後に語られていることをしないために、信仰から離れてしまうのです。

正しい処方箋に従わなければ薬は効きません。この薬は効かないという人が、処方箋どおりにしていないことがあります。イエスの言う事を聞いて信じてみたものの、ぜんぜん幸福感がないという人がいるならば、もしかしてイエスの言われることばの一部分だけ従っていないかもしれません。イエスは正しい処方箋を語っているのです。つまり、ここでは、「わたしは心優しく、へりくだっているから、わたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。」と。これはイエス様だからこそいえることばで、私たちが言うとは傲慢になります。ですから、静止の時を持ち注意深くあらねばなりません。

(2) 「キリストのうちにとどまること」

マタイ 11 章 29 節の「わたしのくびきを負う」ということばを別なことばで表現するなら、「キリストのうちにとどまる」（ヨハネ 15:4）となります。「わたしのもとに来なさい。」そして「わたしのうちにとどまりなさい」とイエスは言っているのです。後者のことばは実はとても重要で、ここが欠落しているクリスチャンが多いのではないかと思います。

ヨハネ 15 書 4 ～ 5 節「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ実を結ぶことができません。（当たり前のこと）同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」……………次月号に続く

LCJEは、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJEとして支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断していただきますよう、お願いいたします。

2020年度祈禱会予定

場 所	4月	5月	6月	会 場
大阪(6:30より)	9日	14日	11日	北浜スクエア(VIP関西センター8F)
東京(1:30より)	11日	9日	13日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈りにご参加される方へ】第二木曜日午後6時半開始です。

【東京祈りにご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈りの会場は、811号室ですが、変更される場合があります。階下の掲示板をご覧ください。ご参加ください。

Tokyo 2020 World Mission Conference

世界宣教会議 東京 2020

～世界宣教の達成とイスラエルの救い～

Back to Jerusalem and Accomplishing World Missions

2020年4月30日(木)～5月3日(日)

私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、
信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。

ローマ人への手紙 1章 16節

講師：ダニエル・ジャスター / エレズ・ソレフ / ノアム・ヘンドレン / バルーフ・コールマン

場所：ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会 / 参加費：3,000 円

【詳しいお問い合わせ】 担当：石野様 / ☎ 080-5133-4620 / Eメール：mtcokuyama@gmail.com

LCJE日本支部2020年01月度会計

収入・献金			支出・現金		
科 目	金 額		科 目	金 額	
献 金	126,700		事 務 費	12,800	
大阪祈り会席上献金	10,000		NEWSレター製作費	50,120	
			郵 送 費	40,500	
			郵便振替手数料	3,060	
			通 信 費	5,500	
			賃 借 ・ 管 理 費	22,000	
			高 熱 費 ・ 共 益 費	9,800	
			交 通 旅 費	7,000	
			祈 り 会 経 費	14,000	
合 計	136,700		合 計	165,807	
前月よりの繰越	107,072		差 引 残 高	-29,280	
			翌月への繰越	78,122	

事務局よりのお知らせ

LCJE 日本支部では、皆様からの御投稿をお待ちしています。インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。文字数は2000文字前後でお願いいたします。投稿記事は、封書で送っていただくか、LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM 又は FAX 072-867-6721 まで。宜しくお願い致します。

編集後記

コ・ワーカーの皆様今月号もお手元へニュースレターをお届けできる幸いを主に感謝します。今月は3度目のイスラエル総選挙が行われます。イスラエルの政治が正しい方向へ前進することが出来ますようにお祈りください。LCJEのニュースレターが継続的に発行することが出来ますよう編集作業の労苦のこと、経済的な祝福を覚えてお祈りください。今年も多くのユダヤ人が主とお会いし救い主を受け入れ、救われます様にお祈りください。心注いでイスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。コ・ワーカー一人一人に主の祝福がありますように。シャローム

LCJE日本支部事務局長 高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝